

シーン3

粘液怪人「リーダー♡リーダー♡起きて下さい。楽しい楽しい洗脳のお時間ですよ♡」

粘液怪人「んふ、やうと目が覚めたみたいですね。おはようございます♡」

粘液怪人「あはう、この前え、あれだけ搾り取ったのに、まうだ、こんなに抵抗する力、残ってるんですね♡くふふっ。さうすが正義の味方のリーダーですよ♡」

粘液怪人「でもお、んふっ、私の粘液ゴム拘束は、絶対、解けませんから。尊敬するリーダーのために、いつもは100体に分割している力の、99体分を、集中してあげてますからあ♡」

粘液怪人「あ、あ♡私の腕を引きちぎろうとするリーダーの表情とっても興奮しちゃう♡」

粘液怪人「けど、もがいてもダメ。無駄な努力ですよ♡んふっ、あと1体分はどうしたか、気になります？。気になります？。」

粘液怪人「ですよね、気になりますよね。くふふっ。それじゃあ、こちらを見て下さい♡」

粘液怪人「あ、見えます。目の前のディスプレイ♡これは粘液怪人の私が、普段してる洗脳任務です」

粘液怪人「ざっくり説明しちゃうと、いわゆる風俗業務ですね」

粘液怪人「戦闘員さんや、さらってきた一般市民の頭の中を覗きこんで、そのヒトが望むプレイをピンクゴムの分体で叶えてあげるんです」

粘液怪人「ずっと抱えてた性癖をダイレクトに直撃したら、みんな、すぐに気持ちよくなっちゃって、びゅるびゅる、即射精しちゃうんですよ」

粘液怪人「で、素敵なお射精と引き換えに、精神は無防備なっちゃって、組織の洗脳が進行しちゃいまっす」

粘液怪人「みんなは気持ちよくなれるし、私は組織の忠実なコマを洗脳で手に入れられる、お互い、最高にメリットがありますよね」

粘液怪人「今回のプレイは…まんま、戦隊のピンクを好きに犯したいって人向けのコース」

粘液怪人「結構人気のメニューなんですよ、正義の心をもったピンクを自分のちんぽで分かせて堕としていく」

粘液怪人「男の人って、みんな、こういうのが、大好きなんですよね♡浅ましくて、下劣で、どうしようもない妄想を抱えて、ハアハアしちゃって、キモいですよね。けど大丈夫、もう慣れましたから♡」

粘液怪人「私も自分が絶対優位に立つておちんぽ突き立てることしか考えてない人の顔見て、いっぱい気持ちよくなるの、だうい好きなんですよ♡」

粘液怪人「あ、ピンク危ない♪ 戦闘員さんに、捕まっちゃったあ♡」

ピンク「や、やあ…こんな、卑怯です…やめて、下さい…!」

粘液怪人「あ、戦闘員さんのセリフはカットしてあります。何、言ってるかわかると思いますし。ほら、ピンクの犯され姿、しっかり見て」

ピンク「あぐ、はぐぐ、いきなり奥までえ…ぐ、ぐぐう…あひ、んひい…ひぐ、ふぐぐ…」

粘液怪人「あゝあ、ハメラれちゃいましたね」

粘液怪人「この戦闘員さん、絶倫だから、このあと、ずっと続いちゃうんですよ〜」

ピンク「んい、んい…こんなことで、私、くじけたりしないから…」

粘液怪人「ほら、言ってる間にピストンはじまっちゃった♡ 戦闘員さんのオチンポ、太くて、長くて、すごかったんですよ♪」けど、映像の私はびっくりしちゃって、まだ楽しめてないかも」

ピンク「あ、ああ、あつああ…中あ、ぐちゅぐちゅされて、ふひ、くひい、んい…きつと、リーダーがすぐに、来てくれるから…」

粘液怪人「うんうん、わかるゝ、私も初めは信じてたんですよ、リーダーのこと♡ くすすつ♪」

粘液怪人「ね、聞いてます? オチンポ、おつきくして、映像に夢中になりすぎですつて。ほらガチガチの先っぽ、「ツンツン突いちゃいます。ツン♡ツン♡」

ピンク「ぐ、ぐぐつ、こんなに激しくズボズボされたら、私のおまんこ、拡がったまま、元にもどなくなるう。や、やあつ…んい、んい…こんな屈辱、ありえないよ…」

粘液怪人「それ、リーダーの玉袋も、手でもみもみしちゃいますよ」

粘液怪人「あ、オチンポ、またおつきくなつて、ひどいですゝ♪ ピンクが凌辱されて苦しんでるのに、股間のたまたま揉まれて、ハアハアしてるなんてサイアク♡ リーダー失格ですよ、くすす♪」

ピンク「や、やあつ…わけ、わかんない…敵になって、気持ちよくされたくないのに、ひあ、ひああっ♡」

粘液怪人「あと少しでイキそうになっちゃってますね。ほらあ、リーダーに救いを求めながら、イカされるとこ、しっかり見て」

ピンク「ああ、あああ…い、イクう…」

ピンク「あひあんっ♡ あはあああッ♡♡♡」

粘液怪人「とうとうアクメっちゃつて戦闘員さんの濃いヤツ、びゆるびゆる出されちゃってますね♡」

ピンク「んえ、んええ…量、すすすぎ…おまんこも、子宮もいっぱいれえ、これ以上受けとめられないひ…」

粘液怪人「残念♡ これ、作った映像じゃないですよ。あゝ、でも衝撃すぎて、受け止めきれないかも」

粘液怪人「リーダーの中では、それでいいんじゃないですか、くすすつ♪」

粘液怪人「あ、2回戦に行くみたい」

ピンク「んじゅる、ちゅばちゅぶ、んちゅぶう……こんなクツサイの……ん、んんう、」

ピンク「こうしないと罪もない市民を襲うからう……しかたなく、です……」

粘液怪人「ほら、清楚なピンクがドスケベフエラしちゃってます」

粘液怪人「ああいつてるけど、あんなに熱心におちゃんほ舐めちゃって♡」

粘液怪人「リーダーも好きなんですか？ 正義の味方を市民を立てに脅して、あんなことさせるの♡」

粘液怪人「ふふふ、でも、リーダーのチンポもまた硬くなってますよ♡」

粘液怪人「エスカレートしていつてるの♡ 勃起チンポのビクビク♡」

ピンク「んじゅぶ、ちゅばちゅぶ、初めてですっ……こんなの……うう、精一杯頑張りますから、あぶ、はぶぶ、んれろ、れろろ、んれろろお♡」

粘液怪人「映像だけじゃ物足りないよね？ 自分で抜き始めるかと思つたら、頑張るね」

粘液怪人「じゃあ、変わりに私がリーダーの勃起に指をまきつけて、くふっ、ねちっこく、しっこしっこ、手コキしていきますね♡ こっちはこっちで、気持ちよく射精しちゃって、いいよ〜」

粘液怪人「映像見ながら、気持ちよくなつて♪ しっこしっこ、しっこしっこ♡ くすすっ、ちよとリーダー、頑張るすぎ〜、カウパーだ漏れにしながら耐えちゃつても、意味ないですし」

ピンク「きゃあっ！？ セーしでてるー？」

ピンク「いっぱひお口に出されて、ぐるぐる……げほ……あぶ、はぶぶう……お顔に、びしゃびしゃあ……ふー、ふー♡ セーしの匂い染み付いちゃう……こんなに臭いの♡」

粘液怪人「ほら、抜きどころですよ♡ ピンクの綺麗なお顔、ザーメンぶっかけされたところ見ながら、しっこしっこしっこしっこ、射精して♡ びゅ〜、びゅ〜びゅ〜、びゅるるッ♡♡♡」

粘液怪人「あんんっ、すっこい出た〜、我慢なんて体に悪いよね。ふふふ、今回はスペシャルコースでまだまだ時間があるからいっぱい楽しめますよ」

ピンク「あ、ああ、これは市民のため、市民のため……うう♡ なんて卑怯な……きゃっ！？ 足を……んあっ！？」

ピンク「ぶつというのが、おまんこの内に擦れて、ふひ、くひい、声え、出ちゃいます……ふう、ふう……」

粘液怪人「設定ではさっきが初めてのハズなんですけどね♡ 2回目なのにもう慣れちゃつてる♡」

粘液怪人「まあ、今はまだ人質がいるつてことを理由に耐えているんですけどね。ーダーのこと、尊敬して、信じすぎちゃってますから」

粘液怪人「隣で映像を見てるリーダーは、出した直後に勃起して、ガッチガチ、情けないオスなのに。私、人を見る目なかったんですね。くふぶっ……」

ピンク「あん、あんあん、あんんっ、自分から動くの、これくらい、これえ、あひ、はひい、んいいうっ♡」

粘液怪人「映像の中の私、もう感じちゃってますね♡ 確かに洗脳で、感じやすいように調整されてますけど、これがピンクの本性なんです」

粘液怪人「真面目すぎて、自分を抑圧してただけで本当はドスケベビッチ♡ 10人ぐらいに犯されて、それに氣ついちゃったんですっ」

ピンク「ひぐ、ふぐぐ、あぐぐ、い、イグう、自分から腰振りしてえ、気持ちよくなっちゃうの、あひ、はひい、リーダー、ごめんなさいっ♡」

ピンク「あお、あおおんっ、あっおおおおお——っ♡♡♡」

粘液怪人「リーダーの名前、呼んでます♡」

粘液怪人「無理やりイカされる絶望感の中で、叫ばれるって最高ですよ。しかも当の本人は、オチンポビキビキで射精寸前。ありえないぐらい最低っ、マゾ冥利につきませんか？」

粘液怪人「ほらあ、シコシコ、シコシコシコ、無様に出しちゃって♡ ーダーにできることは、それだけですっ」

粘液怪人「ほらほら、ピンクをオカズに連続射精して、びゆるゝびゆるるゝ、びゅぐるるるゝゝッ ♪ くふふふ、ピンクの映像に目が釘付けになっちゃってますね♡ 私の痴態で興奮してくれるなんてとても嬉しいですよ。リーダー♡」

ピンク「あんあんあん、あんんっ、戦闘員さんのオチンポ、すっ、すっ♡ 種付けプレスで、子宮の入口ごりごり、いい、いいの♡」

ピンク「あっ……え、演技ですっうー？ んあっ♡ ダメっ♡ これは演技なんだからあっ♡」

粘液怪人「あゝあ、もう半分堕ちてますね、私」

粘液怪人「ザコ戦闘員のオチンポで感じまくって、よがりまくってますっ」

ピンク「リーダー許して、私、頑張っても、無理い♡ ううっ、セックス、楽しんじゃって…あ、ああ…♡」

粘液怪人「あ、ヤバい本音出ちゃいましたね」

粘液怪人「子宮を突かれるたびに、正義の心とかモラルとか、トんじやって、欲望に忠実な怪人になっちゃってるんです♡ いいですよね♡ 清廉清楚だと思ってた娘がチンポ一本でよがってあれもない声で喘いで♡」

粘液怪人「リーダーもそう思うでしょ♡」

ピンク「イグう、イグイグイグう、戦闘員さんに出されながら、お、おお、連続ナマ出し、ひお、ひおお、種付けプレスでイグうんっ、ひぐ、ひぐぐう、ひっぐうううう——っ♡♡♡」

粘液怪人「いった私で、オチンポ、ガチガチですね」

粘液怪人「ほらあ、しこしこ、しこしこしこ、袋引きあがつて、濃い竿先まで、あがつてきてますよお」

粘液怪人「あとちようとで、仲間の映像をオカズに底辺射精しちゃいますね。ほらほら出して、出して出して出して、欲望優先の、ケダモノ射精♡ イきましよう♡ 射精、射精、射精♡」

粘液怪人「びゅるゝびゅるゝびゅるゝびゅるゝ♡ びゅるゝるゝう——♡♡♡」

粘液怪人「あぶ、んぶぶ、ギトギトで新鮮なの、まだ、こんなに出しちゃって、すっごくいい♡」

粘液怪人「じゃあ、映像のピンクの反応は、どんな感じかな？ ちゃんと見て。リーダー失格、マゾ男（お）くん♪」

ピンク「…またあ…中に、ナマでえ…んえ、んええ…けど、私は、まだ負けてない…だつて…きつと、リーダーが…助けに来てくれるから…信じてる…！」

粘液怪人「わあ、けなげよね…あんだけあへ顔晒してたのに♡ いったあとでほんの少しだけ正義の心つてやつ思い出しちゃつて♡」

粘液怪人「そんな昔の私の犯され姿を見て、リーダーつてば、オチンポ、ギンギンにそり返らせちゃつて、また射精ですか♡」

粘液怪人「戦隊仲間があんなに正義を信じてたのに、くすすつ、そのリーダーが、自分の性欲に忠実でいいんですか？ でも、今すぐ射精したい、リーダーのドス黒い欲望、伝わってきてます」

粘液怪人「いいんですよ♡ リーダーは敵の罠にかかつて射精させられてるだけ♡ もう一度出しちゃつたらスッキリしてこのピンチを脱出できるかも、しれませんがね♡」

粘液怪人「このまま、ほらあ、しこしこ、しこしこしこつ、リーダーのエロマラあ、いっぱい抜いて、気持ちよく、お・しゃ・せ・い、させてあげますね♡」

粘液怪人「ほらほらあ、しこしこ、しこしこしこつ、出せ、出せ出せ出せつ、濃くて、ドロドロのザーメン、びゅるびゅる、た〜くさん出しちゃえ〜♡♡♡♡」

粘液怪人「んもう、頑張りますね♡」

粘液怪人「もうオチンポ、ギンギンで、いつ暴発しても、おかしくないのに…♡ 戦隊リーダーとしてのプライドが許さなのかなあ？ けど、何回も出しちゃつたあとですし、手遅れですつて♡」

粘液怪人「ピンクの犯され映像で、興奮してたの、バレバレすぎですし、くふふふっ♡」

粘液怪人「だから、リーダーも堕ちても大丈夫♡ 気持ちよく、しこしこ、しこしこしこつ、射精して♡」

粘液怪人「ほらあ、玉袋が引きあがつて、また射精しそう♡ このままぐつぐつ煮えたザーメン、思う存分、吐き出しちゃつて♡」

粘液怪人「だせ♡ だせ♡ だせつ♡ いっぱいっばい欲望の塊を吐き出しちゃえ♡ ハッ、どつておきの映像出しちゃいますね♡」

ピンク「あ、あ♡ ちんぽ♡ んひっ♡……はひっ♡ はひいっ♡ ちんぽ大好き♡ 私♡ ちんぽあれば♡ もうなんでもいい♡ んひっ♡ 戦闘員さんのちんぽすっごいのお♡♡♡」

粘液怪人「ほらほら、今までの保存人格が堕ちた映像集、5回目、8回目が多いのかな♡ アハ♡ みんなすっごい気持ちよさそうな顔でしょ♡ ピンクの心がポッキリ折れてオチンポだけ考えて腰振り出すの♡ 人気のサービスなんですよ♡」

粘液怪人「あんんっ、リーダー、出てる、出てるッ♡ ツチな射精、すっごい♡ ひゃうっっ、」

粘液怪人「私の顔に、ラバーの体までえ、リーダーのザーメンで、ねとねとにされちゃいましたあ♡」

粘液怪人「全身、精液まみれになっちゃうの、好き、好きいい、本当に、これえ、クセになっちゃうのお…あふ、はふう…ね、リーダー…私の堕ちたときのお話で、思いつきり、お射精しちゃいましたね♡ くすすっ、」

粘液怪人「でも、粘液怪人チェリー・ピンクゴムの爆誕エピソードで、いっぱい興奮してもらえて、よかったあ♡」

粘液怪人「私、リーダーに認めてもらえたみたいで、うれしい♡ んんっ…勃起したままのオチンポから、まだ、びゆるびゆるっ、オス汁噴きだしひゃつてえ、エッチすぎっ…」

粘液怪人「それじゃ、このままあ、はむむっ…♡ ーダーの精液、いただきちゃいますねえ…」

粘液怪人「んちう、ちうるっ、んっちうるるるっ♡♡」

粘液怪人「すっごい濃いせーし、美味しい♡ 私は7回で折れましたけど、リーダーは、あと何回、耐えられるかなっ♡」